

学 位 論 文 要 旨

氏 名 藤 原 忠 雄

題 目 教師ストレスへの支援の在り方に関する基礎的研究
ー性, 年代, 校種による差異, 及び包括的なストレス構造の検討ー

学位論文要旨 (和文2,000字又は英文1,000語程度)

本研究は、教師ストレスへの支援が喫緊の課題であり、その支援の在り方を検討する際の基礎資料を提供するために取り組まれた。各章の概要は以下の通りである。

第1章では、我が国の教師ストレスの状況として、教師の精神性疾患等による病気休職者の現状や教師が向き合っている、多様化・困難化している生徒指導上の諸問題などが概観された。また、本研究で取り扱う概念の整理と教師のストレス構造の仮説モデルの構成がなされた。さらに、我が国の教師ストレスに関する研究の動向が概観された。

第2章では、第1章の教師ストレス研究の概観の結果、①教師ストレスに関して、性、年代、校種による差異の包括的な検討が十分になされていない、②教師ストレスに関して、包括的なストレス関連諸要因間の影響過程の検討、すなわちストレス構造についての検討が十分になされていない、③教師ストレスへの支援の在り方に関して、実証的研究の結果に基づいた具体的対策についての検討が十分になされていない、という3点が問題点として挙げられた。

第3章では、上記の問題点①を検討するために、ストレッサー、ストレス反応、ソーシャルサポートを測定する尺度(「職業性ストレス簡易調査票」(下光ら, 1998))を用いて、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教師1881名を対象に質問紙調査が実施され、性差、年代差、校種差が検討された。その結果、以下のことが明らかにされた。第一に、ストレッサー、ストレス反応、ソーシャルサポートにおける性、年代、校種による差異に関して、女性は男性よりストレス反応が高いこと、40代はストレッサー及びストレス反応が高くソーシャルサポートが低いこと、ストレス反応は高等学校が高く、ソーシャルサポートは小学校が高いことなどが明らかにされた。第二に、ストレッサーとストレス反応との関連性と、その性、年代、校種による差異に関して、各々のストレス反応へ影響を及ぼす種々のストレッサーが明らかにされた。また、男性の「仕事のコントロール」の不全感、女性の「対人関係」の悪さは、ストレス反応へ影響を及ぼす重要な要因であり、その影響性の大きさに顕著な性差が見られた。第三に、ソーシャルサポートのストレス反応軽減効果と、その性、年代、校種による差異に関して、「上司からのサポート」は、女性の全てのストレス反応、40代の全てのストレス反応を軽減さすものであり、その有効性と重要性が明らかにされた。また、職務ストレスの軽減という観点からは、「家族・友人からのサポート」は「上司からのサポート」及び「同僚からのサポート」に比べ、その有効性が見出せなかった。

第4, 5, 6章では, 問題点②を検討するために, 小学校教師610名, 中学校教師340名, 高等学校教師497名を対象に, ストレッサー, ストレス反応, バーンアウト, 情緒的支援, 自己効力感, コーピング特性の6要因間の関連が検討された。その結果, 以下のことが明らかにされた。第一に, 各校種におけるストレス構造に関して, 小学校, 中学校, 高等学校のいずれにおいても, 基本的ストレス過程である「ストレッサー → ストレス反応 → バーンアウト」が要因間の関連の基盤であることが確認された。また, 基本的ストレス過程に情緒的支援, 自己効力感, コーピング特性が緩衝要因として作用していることが示された。第二に, 6要因の下位尺度間の関連に関して, バーンアウト予防の観点から次のような結果が得られた。小学校, 中学校, 高等学校のいずれの場合も, 児童生徒の理解とその指導援助に関する自己効力感の高揚, 及び職場における情緒的支援の充実の重要性が示唆された。また, 各校種の教師のメンタルヘルスへの支援の在り方を検討する際の貴重な指針が得られた。

第7章では, 問題点①及び問題点②を検討した第3章から第6章までの結果を踏まえ, 問題点③に関して検討を行うとともに, 教師ストレスへの支援の在り方に関する総合的考察が行われた。第一に全体的視点として, 教師ストレスには性差, 年代差, 校種差があるという認識に立つことが必要である。第二に, 小学校, 中学校, 高等学校の共通の視点として, 情緒的支援と自己効力感がストレス軽減及びバーンアウト予防において重要である。また, 管理職の不適切な言動, 授業の不成立(小学校は生徒指導上の問題を含む), 及び多忙は, バーンアウトに直結するストレッサーであり, 回避すべき重要な事項であり状況である。第三に, 小学校, 中学校, 高等学校ごとの個別的視点として, 小学校においては保護者対応が, 中学校においては同僚との人間関係がバーンアウトに繋がり, これらの対応が求められる。最後に, 以上の結果を基にした小学校, 中学校, 高等学校の校種別の研修プログラム(例)が提示された。